

会報 いわて



一般社団法人

岩手県臨床検査衛生検査技師会

第27回 岩手県医学検査学会

Focus on the future

～未来を見据えた臨床検査技師を目指して～

会期 2024年10月19日(土)

開催地:盛岡市(いわて県民交流センター)

主催:一般社団法人岩手県臨床衛生検査技師会

開催担当 三陸地区臨床検査技師会

多数の参加いただきありがとうございました。

おかげさまで無事終了しました。



(い わ て)

第 27 回岩手県医学検査学会・岩臨技設立 70 周年・法人化 35 周年記念事業
お疲れさまでした。

一般社団法人 岩手県臨床衛生検査技師会 会長 高橋一博

去る 10 月 19 日にアイーナで行われた第 27 回岩手県医学検査学会は成功裏に終了致しました。ご協力頂きました皆様、参加された皆様、ありがとうございました。

今回は岩臨技が始まって 70 周年、法人化されて 35 周年の節目に当たり、過去の理事会で 70 周年には記念事業を行うと決議されていると連絡が来た所が始まりです。コロナ禍の中、学会・研修会の多くは web 開催に移行しておりましたので、集合学会自体久しぶりとなりましたが、運営に携わる皆様には手際よく準備を進めて頂きスムーズに進んだと思います。

学会中の記念式典の中で各地区会長から活動に貢献された方を推薦して頂き、特別表彰を行いました。盛岡地区:石澤 毅士様、中部地区:岩渕 義文様、南部地区:細川 裕史様、三陸地区:紺野利一郎様です。また、会長推薦として長年岩臨技役員として貢献された櫛桁 久美様、畠山 秀樹様にも功労賞を送らせて頂きました。皆様おめでとうございます。そしてありがとうございます。

当日は強い雨の中、日臨技より会長代理として山寺副会長に来県して頂き、祝辞を頂戴いたしました。また、日臨技北日本支部早坂支部長にもご臨席頂きました。

会の終了後にはメトロポリタン盛岡ニューウイングで記念祝賀会を行い、こちらも多数の方にご参加いただきました。講演を行って頂きました、弘前大学石山部長、県央保健所長仲本先生にもご参加いただき、多くの会員の方と交流を持たれた事はとても嬉しい事でした。学会、記念式典、記念祝会に携わって頂きました実行委員の皆様、感謝申し上げます。

さて、記念事業として記念誌の発行準備が現在進行形で進められております。発行様式は各施設には印刷物とし、各個人にはホームページからのダウンロードとなる予定です。これを持って岩臨技設立 70 周年・法人化 35 周年記念事業が完成する予定です。皆様、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。



左から高橋、早坂北日本支部長、山寺日臨技副会長、安保前会長、行森前会長、菊池前会長



(い わ て)

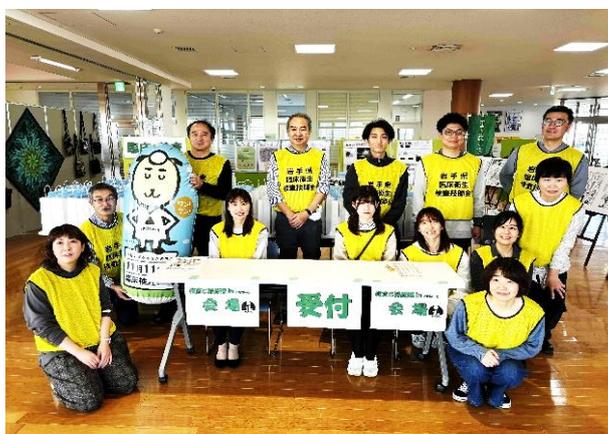
全国 検査と健康展 in やはば一く 大盛況のうちに終了しました！

公益事業部長 川村 将史

令和6年度も新型コロナウイルス感染症、インフルエンザやマイコプラズマ肺炎への感染症に留意し、感染対策を行いながらの開催となりました。当日は、若干肌寒さも感じましたが快晴ということもあり、143名もの多くの方にご来場いただくことができました。

今回、展示および体験していただいた内容は、臨床検査紹介パネルをメイン展示として、その他に、「AED体験コーナー」、「エコー体験コーナー」、「PPE 着脱体験コーナー」を設置しました。「AED体験コーナー」は、我々、臨床検査技師も医療人としてまた日常生活においても習得が重要であると考え一人でも多くの方に心肺蘇生法を身につけていただくことを目的として設置しました。小さな子にもこの時期から親子で触れることが重要と考えて体験していただきました。恥ずかしがりながらも真剣に AED キットに触れていました。「エコー体験コーナー」では実際に機械に触れていただき、「身近な食べ物」を観察していただきました。特にフルーツゼリーは全ての参加者が興味津々で、握ったグローブを離さないお子さんもいました。目に見えない中身を自分で画像として抽出できる面白さを体験していただけたと感じています。

当日参加スタッフにおいては日々の業務が忙しい中、臨床検査技師の知名度普及と県民の健康増進のために熱心に頑張ってくださいました。また、早くスタッフを送り出していただいた勤務先の現場の方々にもこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。



(い わ て)

第 18 回 JIMTEF 災害医療研修ベーシックコースを受講して

岩手県立遠野病院 臨床検査技術科 本間 蒼

今回 JIMTEF 災害医療研修ベーシックコースを受講して、災害が起きた際の情報共有の難しさをかなり感じました。病院間はもちろんですが被災地域から患者さんを運ぶ際に患者さんの状態に応じて受け入れてくれる病院が変わってきますがそれらを探すのがとても大変で、見つけられたとしても患者さんを被災地から病院へどうやって運ぶのか、陸なのか空からなのかは被災状況によっても変わってきます。また移動中は最低限の設備しか準備されていないため、移動が長時間になればなるほど患者さんの状態は悪化してしまいます。これらを少しでも改善できるように災害を経験する度に反省点を次に活かしていました。私自身大きな災害に遭遇したことはないのですが、これからも遭遇しないとは限らないため、自分が被災した際に今回の災害医療研修を活かして現場に貢献できるようにしようと思いました。

大規模事故・災害への体系的な対応に必要な項目 CSCATTT

C: C ommand & C ontrol 指揮と連携		
S: S afety	安全	災害医療
C: C ommunication	情報伝達	体制の確立
A: A ssessment	評価	

T: T riage	トリアージ	災害医療
T: T reatment	治療	活動の実施
T: T ransport	搬送	

(英国MIMMS® Major Incident Medical Management and Support) より引用、改変

避難所での人命救助

- 人命救助は発災直後72時間が大切
- 避難所も最初の72時間が重要
- 避難所生活ではエコノミークラス症候群リスクは発災直後から始まっている
- 血栓症(エコノミークラス症候群)のリスクを減らすことで避難所の2次的健康被害を予防することができる

避難所での健康管理(季節によって異なる)

感染症・熱中症・低体温症予防

- マスク着用・手洗い(コロナ、インフル、ノロウイルス対策)
- 口腔ケア(歯磨き等)
- 食中毒・飲食物の管理
- 段ボールベッドの設置
- トイレの管理
- 体温・咳・下痢症状の有無

スフィアプロジェクトとは何か

- 1997年に人道支援を行う、国際NGO団体と国際赤十字・赤新月運動によって発足された、人道援助の主要分野全般に関する最低基準づくりのためのイニシアチブ
- 1994年のルワンダ大虐殺がきっかけ
- 災害援助における行動の質を向上し、支援を行い、支援を受けるさまざまな関係者に説明責任(情報共有・参加)を果たすことを目的とする

地域災害医療コーディネーター研修事業(新規)

首都直下地震等の大規模災害時に、被災地において適切かつ迅速な医療活動が提供できるよう、市町村単位の医療ニーズの把握や情報収集などをきめ細やかに、都道府県災害医療コーディネーターとの連携、DMAT等の医療チームの派遣調整を実施する地域単位の災害医療コーディネーターを養成する。

現状
東日本大震災の課題を踏まえ(※)、平成26年度より、「災害医療コーディネーター研修」実施し、全国の都道府県で災害医療コーディネーターが整備されてきている。
※ 災害時における医療体制の充実強化について(平成24年3月21日、厚労省長通知)より
「各都道府県に対して、救護班(医療チーム)の派遣調整等を行うために、派遣調整本部においてコーディネーター機能を十分に発揮できる体制整備が求められる。」

課題
今後、被災が想定される首都直下地震や南海トラフ地震等の大規模災害の場合、被災地域が広大で医療ニーズも最大となり、都道府県単位の災害医療コーディネーターのみでは適切な対応ができない事態が想定される。大規模災害時においても適切かつ迅速な医療活動を実施するため、市町村単位の医療ニーズの把握や情報収集などをきめ細やかに、都道府県、医療チーム等との連携調整等を行う地域単位の人員の養成が必要である。

地域災害医療コーディネーター研修
(補助先) 都道府県
(実施主体) 都道府県、災害医療コーディネーター
(対象者) 保健所職員(医師、保健師等)
(内容) 医療チームの派遣・連携、災害拠点病院における医療チームの受け入れ、災害医療コーディネーターの現状と課題、支援者のメンタルケア など



(い わ て)

令和6年度 第1回岩臨技 一般検査部門研修会に参加して

岩手県予防医学協会 羽石乃彩

令和6年10月18日(金)にいわて県民情報交流センター アイーナで開催された一般検査部門研修会に参加しました。前半は栄研化学株式会社の綿引先生による「尿生化学項目の概要とその周辺知識」、後半は慶応義塾大学病院の石澤先生による「上皮細胞の鑑別法」をテーマとして講義していただきました。大部分が一般検査未経験者でも理解しやすい内容になっており、自身の知識を再確認できたほか、新たな知見も多く得られました。

尿生化学については、聞き馴染みのない項目にも複数触れられていました。日々新たなバイオマーカーが発見されていく中で、このような研修会に積極的に参加し、医学の目覚ましい進歩に乗り遅れないようにしたいと思いました。予防医学に携わる身として、県民の健康を守るためにも知識をアップデートしていきたいです。

後半は、普段鏡検をしていて鑑別が難しいと感じていた細胞について非常にわかりやすく比較されていて、すぐに業務に活かせる内容でした。自施設ではS染色のみを行っており、見分けがつかず悩むことが多々ありました。研修会を終えてからは必要に応じて無染色でも観るようになり、各細胞の特徴をおさえることで鑑別に自信がつかしました。

対面で行われる研修会への参加が初めてだったので緊張していましたが、会場はとても温かい雰囲気でした。また、一般検査に関わる方々と繋がりを持てたことは、今後の人生において大きな糧になったと思います。参加してよかったと心から思える研修会でした。今回このような機会を設けていただきありがとうございました。



(い わ て)

令和6年度岩臨技一般部門研修会を終えて

岩手医科大学附属病院中央臨床検査部 五内川 有希

今回、入職6年目にして初めて現地で顕微鏡を扱う研修会に参加させていただきました。初めての参加で大変緊張しましたが、現地開催ならではの雰囲気や経験ができる貴重な機会となりました。

研修会は、顕微鏡の視野数・芯出しなどの基本的な使い方について講演を30分受けた後に、実際の標本観察を3時間程行うという内容でした。特に標本観察は面白く、参加者を3グループに分けたうえでそれぞれに認定一般検査技師資格を持った講師の方がついて下さり、3時間でも足りないくらいでした。

顕微鏡実習用の標本は種類が豊富で、非糸球体型赤血球や鋸歯型の尿細管上皮細胞をはじめとした基礎的な標本から、糸球体型赤血球、角柱型・アメーバ状・レース状の尿細管上皮細胞、好酸球や中皮細胞、マルベリー小体のような希少な成分の無染色、S染色が幅広く準備されていました。特に異型細胞は膀胱癌、尿管癌、前立腺癌、子宮体癌、腎癌と、同じ尿路上皮細胞由来や腺細胞由来でも多様な標本が準備されており、腺癌由来の小型異型細胞の判定が苦手な私にとっては大変ありがたかったです。オンラインやオンデマンドの画像で学ぶのも勉強になりますが、実際にピントを動かして細胞辺縁や表面の構造、色調を確認することは大変有意義でしたし、同じ細胞でも数をこなすことでより特徴をつかむことができました。また、参加していただいた県内外の施設の方と交流を持てたこともオンラインでは得られない経験でした。講師の方に答えをもらう形だけではなく、同じ標本について意見を出し合ったり、施設における臨床へのアプローチの仕方を伺ったりなど、大変参考になりました。

今後もこういった研修会には是非参加していきたいと思えます。今回の経験を活かし、より迅速かつ正確に尿中成分を鑑別し、臨床に貢献できるよう研鑽を続けていきます。

最後に、今回の研修会を企画・運営してくださった講師・実行委員の方々に感謝申し上げます。



(い わ て)

令和6年度 岩臨技第3回血液検査部門研修会参加報告

岩手県立中央病院 臨床検査技術科 内藤 呂美

今回の研修会に岩手医科大学附属病院の千葉さんとともに講師として参加させていただきました。部門長の染谷さんから事前アンケートの結果を頂いており、参加者の血液検査の経験年数が1年未満から3年ほどと、経験年数の浅い方々でした。

はじめに顕微鏡の基礎知識と日常メンテナンスの講演が行われました。普段何気なく使用している顕微鏡の使用方法を学ぶことが出来たのは、参加者にとって有意義だったと思いました。

次に末梢血塗抹標本の鏡検実習を行いました。参加者各自に1台の顕微鏡と参加者人数分の症例ごとの標本が準備されていました。その他にライブ配信のできる顕微鏡も準備されており、それを使用して千葉さんと私は症例解説を行いました。まず参加者は各自で標本観察を行い、わからないことは講師に質問をしながら鏡検していました。隣の席の人とも相談しながら行うことで横のつながりも作れる、良い研修会になりました。コロナ禍で行っていたweb開催での研修会とは違い、直接会場で参加者と話し合いながら症例検討を行うことができ、参加者の表情を見ると話したことが理解してもらえてるのがわかりよかったです。

会場と標本の準備をした部門長の苦勞もあり、研修会後のアンケートでは顕微鏡を使用した鏡検実習はとても好評でした。すでに次回の開催を待ち望んでいるような声もありました。事前の準備は大変かもしれませんが、実習形式の研修会は参加者のためになるので、継続してほしいです。最後に研修会の企画、運営をされたみなさま、お疲れ様でした。



(い わ て)

第3回血液検査部門研修会に参加してみた

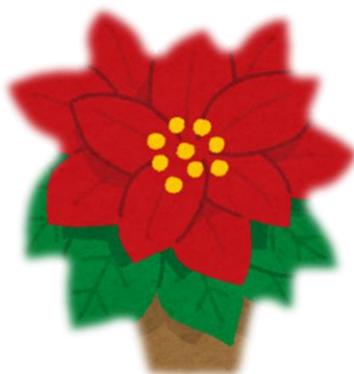
岩手医科大学附属病院 小出 彩有里

今回、初めて血液分野の対面研修会に参加し、顕微鏡の基礎知識や、末梢血液像の見方を学ぶことができました。最初に顕微鏡の日々のメンテナンス方法や、軸の調整方法などを学びました。

普段顕微鏡を使っていて、あまり意識することが少なかったため、参考になりました。

末梢血液像の研修では、まず基本となる白血球分類についてスライドを通して説明を受け、基礎知識の復習となりました。対面研修会ということで、標本観察をしながら、症例検討を隣の人と行い、お互いの考えや、自施設との違いなどを知ることができました。この研修会を通して多くの方と交流ができたのがとても良かったです。今回の研修では、末梢血液像で異常な血液像を見つけることはもちろん、同時に検査している生化学や免疫、一般などの検査結果、患者の状態を踏まえて症例を考えることの大切さを学ぶことができました。症例と血液像は、すぐに結びつくこともあれば、初期の状態や小児などでは血液像だけでは難しい場合もあると知り、より患者の背景を考慮することが必要だと感じました。

末梢血液像を観察して正しい細胞分類を行い、患者の体の中で何が起きているのか、その機序や理由を説明できる技師になりたいと思いました。今回の研修会では、普段はあまり見られない貴重な症例をたくさん見させていただきました。対面形式だからこそ、実際に自分で標本を動かしながら観察し、写真では伝わりにくい全体像を把握し、分からない細胞などを聞くことができました。大変貴重な経験となりました。ありがとうございました。



研修会・講習会情報

【岩臨技 研究部門研修会】

令和6年度 岩臨技 第2回生理機能部門研修会

日時:2025年2月1日(土)12:30～15:00

会場:都南公民館(キャラホール)第1研修室

内容:講演Ⅰ「VA エコーの基礎(仮)」

講演Ⅱ「当院におけるVA エコーの現状(仮)」

ハンズオン(シャントのある方にモデルをお願いしています)

※ 申込開始:1月4日(申込順先着10名)

<http://www.iwateamt.or.jp/event/2957>

令和6年度(第30回)岩臨技精度管理調査報告会・総合管理部門研修会

日時:2025年2月8日(土)13:00～16:00

会場:ハイブリッド開催(現地:リリオ、Web:Zoom使用)

内容:精度管理調査報告会「精度管理調査報告」

総合管理部門研修会「これからの精度管理を考える」

<http://www.iwateamt.or.jp/archives/2947>

【地区技師会研修会】

令和6年度 岩臨技 第1回南部地区技師会研修会

日時:2025年1月15日(水)18:00～18:30

会場:岩手県立磐井病院 2階 多目的室

内容:「循環器疾患と検査マーカーの基礎(ガイドラインを含め)」

<http://www.iwateamt.or.jp/event/2937>

令和6年度 岩臨技 第4回中部地区技師会研修会

日時:2025年1月23日(木)17:00～17:30

会場:Web開催(Zoom使用)

内容:「そうだったのか!甲状腺ホルモン検査を深堀!

(ホルモン検査と非特異反応、TSHハーモナイゼーション etc)」

<http://www.iwateamt.or.jp/event/2955>

令和6年度 岩臨技 第2回三陸地区技師会研修会

日時:2025年1月29日(水)16:00～16:45

会場:Web開催(Zoom使用)

内容:「循環器診療における循環器マーカー

～2023年改訂版 日本心不全学会ステートメントの解説を中心に～」

<http://www.iwateamt.or.jp/event/2942>

(い わ て)

【北日本支部研修会】

北日本支部 染色体・遺伝子部門研修会

「遺伝学的検査の今後」

Live 配信:2025 年 1 月 11 日 (土)

<http://www.iwateamt.or.jp/event/2926>

北日本支部 輸血細胞治療部門研修会

「多職種で取り組む造血幹細胞移植の実際と、より安全な輸血検査体制を築くためには」

オンデマンド配信:2025 年 1 月 10 日～1 月 31 日

<http://www.iwateamt.or.jp/event/2856>

北日本支部 臨床血液部門研修会

「Brush up!血液学」-臨床に求められる検査技師を目指して

オンデマンド配信:2025 年 1 月 18 日～2 月 16 日

<http://www.iwateamt.or.jp/event/2876>

北日本支部 臨床検査総合部門研修会

「“DX と AI” の知識をアップデート ～システム運用には対策も忘れずに！～」

オンデマンド配信:2025 年 1 月 20 日～2 月 21 日

<http://www.iwateamt.or.jp/event/2878>

岩臨技 HP には他団体主催の研修会情報も掲載しています。

最新情報は岩臨技 HP、日臨技 HP をご覧ください。

岩臨技 HP <http://www.iwateamt.or.jp/archives/event>

日臨技 HP <https://jamtjamtis.jamt.or.jp/Jamtis/EventPublic/Home.aspx>

(事前申し込みは日臨技 HP から)



(い わ て)



～編集後記～

今回の会報は、研修会・講習会の参加報告・感想文が多くなってしまいましたが、年始号に期待してください。

寒い日が続き、空気が乾燥しています。インフルエンザ、マイコプラズマ、COVID-19の感染も増えてきていますが、皆様も体調管理に気をつけて乗り切りましょう。(fuji)

会報「いわて」第350号 2024.12

一般社団法人岩手県臨床衛生検査技師会

発行人：

会 長：高橋 一博

事 務 局：下川 波歩

編集責任者：熊谷 公代

藤倉 由規

〒020-8505 盛岡市内丸19-1 岩手医大中検内